

## 令和2年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和2年 7月 8日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時05分

---

### ○会議に付した事件

協議事項

1. 資料の検討について
  2. 研究計画の検討
  3. その他
- 

### ○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長谷川 かおり 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小野寺 修 男 君
主 任	村 上 さやか 君

## 人口減少に対応する政策研究会（第2回）

### 【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究計画について

#### 1. 資料の検討

- ①人口動態について 資料1（西田委員）
- ②人口減少の影響について 資料2（高橋局長）
- ③乳幼児等医療給付事業の拡大実施状況について 資料3（大淵座長）
- ④給食費無償化の実施状況について 資料4（大淵座長）
- ⑤政策形成過程について 資料5（高橋局長）
- ⑥令和元年度道内市町村平均所得額 資料6（大淵座長）
- ⑦道内上下水道料金調査 資料7（大淵座長）

○**氏家委員** ウポポイによるまちづくりを続けていけると思わずに、もう一度来たいまち、住んでみたいまちを目指す必要がある。また、人の呼び込みの手法はどうあるべきかを考える。

○**大淵座長** 統計調査の数字から要点を読み解くことが大事。北海道人口ビジョン。P8、出生率の高い市町村の特徴（えりも町など）→第1次産業がさかん。20歳代有配偶者率が高い。三世代同居率が高い。P15、社会増加率の高い市町村（占冠村など）。

○**高橋局長** BSC（バランススコアカード）外的視点から内的視点への流れがZ型になる。お金をどう使うか、町民がどうみるか、行政はどうするのか、準備は何が必要か。

#### 2. 研究計画の検討

##### （1）人口減少対応の研究テーマについて

- ① 若者定住促進を中心テーマとして、経緯・現状・影響を想定した政策形成

○**氏家委員** 町民意識調査アンケートの内容には矛盾を感じる部分がある。そして、簡潔さを望んでいる。

○**貳又委員** 最近白老駅が整備され、駅前に人が集えるようになり、若者の楽しみが少し増えたかと思う。

○**西田委員** コンパクトシティ化が町のお金の使い方の再考の契機となり、町民の税負担を重くしないようにする考え方はどうなのか。ウポポイ開業により白老町に多くの人を訪れるのでおいしいものを食べてもらいたい。まちの人にも食べてもらいたい。若い人が安心して働けるまちになるようになればと思う。

○**佐藤副座長** 町民は自分たちのまちの魅力を知っているだろうか。子供たちがまちを知り、まちの魅力に気づく機会づくりを増やすことが必要。

○**長谷川委員** ウポポイ開業をきっかけにまちで働きたいという学生が出てきている。将来このまちで親になる今の子供たちのために町ができることは何か。

○**森委員** 白老東高校への通学バスは苫小牧からのものが無くなり、生徒は白老駅まで歩いている。学生たちにとっての憩いの場所があれば、白老に移住してきた人に話を聞くと、「海と山があるからここに来た。」とのことであった。ホロホロ山に登ると若い登山者が多かった。

○**久保委員** 関係人口から定住人口へつなげようとするときにネックになるのは雇用である。学んでキャリアを積みたい人は町外へ出るかもしれないが、町内で働きたい人のために何ができるか。

○**貳又委員** 長野県白馬村では高校に観光の学科がある。まちには星野リゾートがあり、提携をして学べるようになっている。

○**西田委員** 三重県の境のまちで、まちづくり交流会があり意見交換をした。町職員は重機を扱えるなど免許を持っている人が多く、山村のまちで非常時に即応的な対応ができるようにしている。町民もボランティア登録をしていて、それぞれの得意分野で対応できるようにしている。

○**氏家委員** 町内会の体制は形式的になりがちで、実働に乏しいことが多い。コミュニティがよい地区は人間関係が良好である。自分の町内会にどのような人材が住んでいるのか把握しているだろうか。モデル地区が一つあれば、町内会実践交流会のような場で紹介できると思う。1次産業の活性化が重要である。漁家経営は何かの状況で一変して落ち込むときがある。それに対する対策や支援は難しいものがある。白老は漁業と農畜産業がある。これらの産業がつながって、新しい雇用の在り方が生まれぬか。

○佐藤副座長 東川町へ行き話を聞いた。町からの持ち出しを少なくして、施設をつくった。交流できるフリースペースがあり、学生が集まっていた。また、ドライブシアターがあった。

○西田委員 地方からの提案に国から補助金が出る。職員の能力向上のため研修を重ねてもらいたい。

○氏家委員 「まちづくりは人である」という。白老町は登山がさかんである。登山と移住が結び付くまちづくりはどうか。

○西田委員 地域おこし協力隊の活用と集落支援員の活用が必要である。議員は町民のため、自分らのアイデアを町へ提言できたらよい。

○高橋局長 まちには条件がありつつもチャンスがある。どう考えてどう実行していくかにかかっている。職員の能力不足と言われがちであるが、必ずしもそれだけではない。お金さえあれば、人がもついたら、という量的なものでの解決なのか、知恵のような質的なものによる解決なのか、解決方法は能力だけにかからないのではないかと思う。

○大淵座長 産業は差別化が必要。町内事業者と懇談して可能性を探ってみる。機会をつかみにいきたい。

◎雇用を増やすためにできることをよく考え、結論を導き出したい。

○高橋局長 直に対面して話すことが大事である。百聞は一見に如かずである。

○氏家委員 議会が動くことで変わることがある。町内に進出しようとする企業と積極的に関わる必要がある。人材を生かす視点がないと、いつまでも議論を続けるだけで終わってしまう。

○西田委員 独身者が勤める企業は、従業員に長く勤めてもらうために、結婚相手が早く見つかるようにと考える。企業が考えていることを知り、議会としての役割を果たすために、企業の経営者とまちづくりを語る必要があると感じている。

○貳又委員 メセナの一環での企業の投資活動がある。企業はそれぞれ特性があり、その上でビジネスパートナーを得ていく。一つ企業が町内へ進出すると、そのビジネスパートナーの進出へつながる。DMOが旅行業の資格を持っていれば、それに関わる人がそれぞれ旅行業の資格を持っていなくても観光に関する取り組みができる。

### 3. 調査方法について

①経過や成果・実績を分析 ②類似政策の比較検討 ③実態調査（聞き取り）④方策検討（先進事例）  
⑤政策提言（まとめ）

○大淵座長 町と議会が両輪となって協議する中で、議員がよく理解し議会としてできることは何か、若者定住促進のテーマで考えていく。

○町民にアンケートを取るとしたら、どのようなものがよいのか次回まで各自考えてくる。

（全体把握が難しいと思う。若者定住のため。雇用・環境・人材の視点）

・焦点を絞っていく。

・資料要求

①家賃補助（独身者・子育て世代）に関する資料 →申し込みがない。他市町村の動向は。

②結婚祝い金制度に関する資料 →道内市町村の動向はどうか。

③土地・家屋の新築への補助に関する資料

④産婦人科への通院費助成に関する資料

⑤妊産婦への対応に関する資料

⑥要保護・準要保護に関する資料 →推移及び内容は。

・制度や実態を調査した上で企業や団体との懇談を実施する。

○氏家委員 人口減少を考えるに当たり、子育て支援を手厚くする必要がある。隙間を埋めていく議論も必要であり、掘り下げた議論で本当の姿を見出したい。